

バックオフィスDX推進事業

榑水清建設

デジタル技術の導入により事務管理業務の効率化を図ることを目的に、DX推進経費の一部を補助する「建設バックオフィスDX推進事業」の第一弾として、榑水清建設（盛岡市、水本孝代表取締役）が勤怠管理のDXに取り組んでいる。

勤怠管理業務を効率化

手待ち時間や入力作業に要する時間を大幅に削減。人件費を各現場に振り分ける業務を、客観的なデータに基づき労働時間を明確に管理することを目的に、DX推進事業を活用してスマートフォンによる出勤の打刻と管理を行うシステムを導入した。内勤の社員から試験的に導入を始め、1現場を対象に試行した後課題点の修正を行いながら段階的に対象を拡大。6月から全社で本格運用とした。打刻を忘れるなどのミスは、現場担当者や総務からの声掛けなどを通じて習慣化を図った。

民間や下請けの



勤怠管理にDX導入

事務が中心の部門は、緊急性の高さなどといった業務の特性から現在紙による勤怠管理に戻しているが、今後課題を精査した上で、全社統一のシステム運用を目指す。ほか、走行距離などもリアルタイムで管理している。これにより、従来の紙による月報方式から